【１】しうげんひきわたしの次第

【２】一なまだれたしの事

【３】二しるの事

【４】三やきものの事

【５】四すいものの事

【６】五りやうりざけの事

【７】六さかなの事

【８】七なますの事

【９】八さしみの事

【１０】九にものの事

【１１】十ごだんの事

【１２】十一よろづきゝかき

【１３】新板　りやうりひてん抄

〔表紙〕【画像１】

【１】料理（れうり）秘伝抄（ひ［　］）□録（［　］ろく）

【２】第一　祝言（しうげん）引渡（ひきわたし）之次第（のしだい）

【３】第二　生だれたしの部

【４】第三　汁（しる）の部（ぶ）

【５】第四　吸物（すいもの）の部（ぶ）

【６】第五　焼物（やきもの）の部（ぶ）

【７】第六　さかなの部（ぶ）

【８】第七　料理酒（れうりざけ）の部（ふ）

【９】第八　指身（さしミ）の部（ぶ）

【１０】第九　鱠（なます）の部（ぶ）

【１１】第十　後段（ごだん）の部（ぶ）

【１２】第十一　煮物（にもの）の部（ぶ）

【１３】第十二　万聞書（よろずきゝがき）の部（ぶ）

【１４】▲祝言（しうげん）引渡（ひきわたし）之次第

【１５】一栗（くり）　ほそきかたをむふへ

　　　　　　　　　　　成やうに三かくにおく也

【１６】一三ツかわらけ

【１７】一のし二本　ひろきかたをきやくのひだりの

　　　　　　　　　　かたへしておきてよし

【１８】一昆布（こんぶ）二切　かぶなりに

　　　　　　　　　　　　　　　きりておく也

【１９】一てうしひさげ

【２０】一さかな　一まきずるめ　一かすのこ

　　　　　　　　　一からすミ

【２１】一むめぼし三ツ

【２２】ざうに　もちくしこむすびこんぶ

　　　　　　　　いもひゝかつうほくしあわび

【２３】一たつくり三ツ

【２４】一ぬりさかづき

【２５】一吸物（すいもの）　ひれの物をほんとする也

【２６】一ねぶか二本　しろね

　　　　　　　　　　　ともに

【２７】　一かんざけ

〔表紙ウ〕〔１オ〕【画像２】

【図】

〔１ウ〕

【図】

〔２オ〕

【１】三ツかわらけ　あしのある小かくをきうす　　てうし

　　　　　　　　　　だいにをくなり　　　　　　　ひさけ

【２】小かくにきそく

　　　一小さし

【３】本膳

【４】めし

【５】一なます　うほ大こん

　　　　　　　　しやうが

　　　　　　　　クりゆ

【６】あつめ

　　　汁　　　くしこいもくづし

　　　　　　　大こんくしあわび

【７】いわし二ツ　かミにつミはら／＼とあハせて水引

　　　　　　　　　にてゆひ中ひだ一つとるなり

【８】一かうの物

　　　一小桶あへ物

【９】二

【１０】きそく

　　　一かいもり

【１１】かわらけ

　　　　一すしわ　　かわらけわ

　　　　　　　　　　一たこ

　　　　　　　　　　かわらけわ

　　　　　　　　　　一くらけ　　一かまほこ

【１２】汁　つりごばう　ふ

　　　　　　木のこ　な

【１３】三

【１４】小かく

　　　　一はもり

　　　　　　　　わ

　　　　　　　　　にし

【１５】きそく

　　　　汁　　　のりはまぐり

【１６】小かくきん銀つゆ

　　　　一ふなもり　　　　小かく

　　　　　　　　　　　　　一さゞい

　　　　　　　　　　　　　きそく小かく

　　　　　　　　　　　　　一小さし

【１７】汁　こい

【１８】小かくいか

　　　　一かさみ

【１９】五

【２０】汁　　たら　こんぶ　　一はまぐり

〔２ウ〕【画像４】

　　　料理秘伝抄

　　　　　第一なまだれだしの部

［生だれハ］ミそ一升に水三升入もミたてふくろにてたれ候也［たれミそ］ミそ一升

に水三升五合入せんじ三升程に成たる時ふくろに入たれ候也［にぬき］なまだれ

にかつほと入せんじこしたる物や［たしハ］かつほのよき所をかき一升あらバ水一

升五合入せんじあぢをすい見候てあまミよきほどにあげてよしすぎ候

てもあしく二ばんせんじつかい候［いり酒ハ］かつほ一升にむめぼし十五か廿入古

酒二升水ちとたまり少入一升にせんじこしさまして吉又さけ二升水一升入

二升にせんじつかふもあり［だし酒］かつほにしほ少入新酒にて一あわせんじ

こしさまして吉［しやうじんのだしハ］かんひやうこんぶ右之内取合吉［しやうじん

のいり酒］とうふをでんがく程に切あぶりてむめぼしほしかぶりなどきざ

み入古酒にてせんじ候又酒ばかりにかけをおとしても吉口伝有之［わさびミ

そすバ］わさびをおろしみそをくわへよくすりてすにてのべ申候［しやうがみそ

ずハ］右同前［白ずとハ］けしにとうふを入しほかげんしてすにてのべ候しらあへ

にハすをいれずよくする也［しもふりハ］たいをきりにゑゆに入やがて水にて

〔３オ〕

ひやし候事也しらめてともいふも同事也又ゆがくとハ何もざつとゆで候事なり

［かけをおとすとハ］すましにたまりを少さする也［とぶとハ］何時も酒のかすをしほりたる

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　よし

　　　　　第二汁の部

［たいのかきいりハ］しほをいりよき比にしほを残しなべのやけたる所へうをゝ入其上へ

いほのひたる程古酒を入たゝさかけのきたる時三ばん白水をさししほかげんす

い合候て出し候也すい口ハ時分のけい物也但シ是ハたいせきり也［鯛かうらいにハ］なべに

しほを少ふりそのまゝたいを入古酒に白水をくはへ右之うをひた／＼に酒けのな

きまでに候てめしの取ゆをさしかけをおとしてかげんすい合いだし候也何にてもきのこ

ねぶかなど入吉其外さくしだい此時ハ鯛をおろして切入也［たいふくたうもどきハ］

したぢ中ミそにてどぶをさしたいを入に候てしほかげんすい合出し候也又こくなり

候へハいくたびもどぶハさし候也たゞしひぶくのかわ入吉ひぶくやきてはぎ候てよし

［すゞきの汁ハ］こんぶたしにてすまし吉うハおきこんぶこもに入くもわた入吉うす

ミそにてもしたて候也［鯉のゐいり汁ハ］まづゐを取とほそわたをよくたゝき

なべに入きつね色にいりてかすを取さけにてもたしてにてもなべをながしすて

後たしを入に申候こいハ三枚におろしうろこ共に切入候夏ハうろこ入事

〔３ウ〕

悪候口伝有之しほかげん大事也又ゐをすりてさけにてのべへちにおきにかミ

のかげんすい合出すりうも有五左伝ハ同こいミそ汁にてハふなのことく仕

［ふなの汁ハ］ミそを中より上にしてだしをくハへ吉わかめにてもかぢめにてもふ

なをまきてに申候あまミすくなき時ハすりかつほ入吉いつれもミそを

たしにてたて候て吉よくに候てさかしほさしすい口さんせうのこ［ざこ汁ハ］こぶ

なゑびまじりにてもかげんハ右之ごとくつまごほう大こん竹の子何にても

さく次第に入さかしほすい口同［たら汁ハ］こんぶだしにてすまし吉すなハち

こぶうハおきに吉おごかたのりもおくだしをくハへ吉又はまぐりつミ入ミの

になどをくハゆる事も有同ひだらも汁ニ吉［くじら汁］すましにかけをおこ

し候ミそ汁にてもしたて候つまごバう大こんくきたちなど吉たけの子

めうがつくり次第鯨ハつくりざつとにゑゆをかける事も有又鯨にさつ

とにてよきもあり可心得者也ふくとう汁ハかわをはぎわたをすてかし

らに有かくしきもをよく取てちけのなき程よくあらいて切まづどぶに

つけておくすミ酒も入候扨下地ハ中ミそより少うすくしてにゑたち候てうほ

を入一あハにてどぶをさししほかげんすい合出し候也すい口にんにく［こち］も

〔４オ〕

うをなどもふくたうもどきとていたし候是もかわをはぎすてひぶく

のかわ入吉立やうハふくたうのことく［あんかう汁ハ］かハをはぎおろしきりて

かハおもミをもにゑゆへ入しらミたる時あげて水にてひやし其後酒を

かけをくミそ汁にへ立候時うをゝ入どぶをさししほかげんすい合出し候也又す

ましの時ハだし計にかけも少おとし候此時ハうハおきさくしだいに入［どせう汁］

中ミそにだしをくハへよくに申候どぶをさして吉つまハごぼう大こん其外

色々但久しくたき候てハミそのあぢ悪候左候へハあたらしきミそをたてさし

ニて出しよきもの也いつれもミそをかうして久敷に申候しるにハ此こゝろも

ち入也すい口さんせうのこ同葉［鶴の汁ハ］だしにほねを入せんじさしミそ

にて仕立候さしかげん大事也つまハその時のけいぶつ吉きのこハいかほど数

入候ても吉何時もすぢをおくすい口わさびゆ又はじめより中ミそにても

したてよりすましにも［白鳥汁］中ミそにて仕立候又すましにもつまハ時分の

物也つくり次第入［かハいりハ］がんにてもかもにてもかハをいりだしを入ほねをせん

じ生たれ少さして身を入しほかげんすい合出し候是もつまハ時の物惣別木

のこハ鳥汁にいつも入候て吉すい口わさびゆ吉［あをかちハ］きじのわたを

〔４ウ〕

たゝきみそを少入なべに入きつね色程に成まで入なべをすゝき扨たしを入にゑ立次第

鳥を入しほかげんすい合出し候也入かげん大事也しもゆき正月の事［山かけハ］たしに

生たれをくわへきしを入仕立候つまハ山のいものりあをむきににても有したいに

入いれずしてもくるしからず［ひしほいり］うすみそにだしをくわへきじを入仕立候山の

いものりなど入て仕候［なんはんれうりハ］にハ鳥のけをひきかしらあしとり切あら

いなべに入大こんを大きに切入水をひた／＼より上に入大こんいかにもやハらかになる迄たく

さて鳥をあけこまかにむしり本の汁へかけおとし又大こんをにてすいあわせ出し候

時鳥を入さかしほ吉すい口にんにく其外いろ／＼［たぬき汁］野ばしりハかわをは

ぐみたぬきハやきはき吉みそ汁にて仕立候つまハ大こんごばう其外いろ／＼

すい口にんにくだしさかしほ［しか汁］うすみそにたしをくわへつまいろ／＼入したて申候

すいくちにんにくこせう［ひや汁］いづれもにぬきにしてしたて候もつくあまのり

のろふしににても入よしくりしやうがめうがかまぼこあさつきなど入吉［あつめ汁］

中みそにだしくハへ吉又すましにも仕候大こんごほういもとうふいりこ竹のこ

ひぶくくしあわびつミ入なども入吉其外色々［はうはんの汁］にぬき吉かまぼこくり

しやうがおろしたまごふのやきなあへてわけこぶめうが花かづほのりきざみ候

〔５オ〕

ものハ何もこまかにして吉しやうじんの時ハいろ／＼さく次第入［しやミせん］なども

たうふもいかにもこまかに切たるをいふミそ汁にだしくハふ［はくち汁］とうふさいの

めに切事汁同［ほしな汁］中みそにだしくわへくろまめはまぐりことりなどもたき

入さといもも同し［にんしん汁］大こんを大きに切一しほのたいを入みそ汁にだし

くハへよく／＼に候て吉［おろし汁］大こんをおろしかきはまぐりなと入吉みそ汁にだし

くわへよし［とろゝ汁］にぬき吉山のいもあをのりよく／＼こまかにおろしすりて

吉のりハいろ／＼よきほど入候て吉あたゝめすぎ候へハ悪候すい口こせうのこ［なつとう汁］

みそをこうしてだしくハへ吉くきとうふいかにもこまかに切こ鳥をたゝき入て吉

くぎハよくあらひ出しさまに入なつとうハだしにてすりのべ吉すい口からしゆにんにく也

　　　　　第三やきものゝ部

［はまやき］大たいのうろこばかりふき竹にてはさミ刀め入しほをふりやきてさか塩

にかけをおとしかけして出し候也［あら塩やき］ふなにしほをはかりつけやきてかけしる

酒塩にかけおとしかけいたし候［ことりやき］ふなの三四寸有を三枚におろしくしに指

さハせうみそをつけ焼也［木のめやき］ゑそに塩を付ゆのはにて包其上を紙につゝミ

むしやきにして取出しかけしるをかけ出す也［さじやき］たうふをさいさく切し

〔５ウ〕

ほをつけうちくべてやく也［しぎやき］なすびをゆでよき比に切くし

にさしさんせうミそをつけてやく也［やき竹の子］竹の子のふしをぬき中

へかまぼこたまごまろにして入かハともにやきて切かまぼこのしほからめに

して吉［いりやき］かもを大きにつくりたまりかけをきてかハをいり身をは

さミ入なべにて一まいならびにやく也あまりしるなくハかけをきたる

たまりすこしいるべきなり

　　　　　第四すい物の部

［うの花］いかのせのかたをすぢかい十文字にこまかに切かけ又大さよき此に

切はなしゆにをしてつまにのりなど入だしにかけをおとしふかせすい合い

たし候也［みのに］たまごをあげしやくしにてうけくだけしをにへゆへ入候是

もつま色々汁同前［このわた］よき比に切うすミそにだしを入ふき立候時

わたを入すい合其まゝ出し候也［まつだけ］こしゆにてさハ／＼といりさ

かけのなき時白水をさしだしたまりくハへふかせ候てすい口ゆを切其まゝ入て

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　よし

　　　　　第五りやうり酒の部

［玉子酒］玉子をあけひやざけを少ツヽ入よくときてしほを少入かんをして

〔６オ〕

【図】

〔６ウ〕

【図】

〔７オ〕

出し候也たまご一つにさけおりべに三ばい入吉［いも酒］山のいものいかに

も白きをこまかにおろして是もひや酒にてよく／＼ときのべしほ少

入かんのよきまてかきまハして吉［はと酒］はとをよくたゝき酒にてとき

ミそを少なべに入きつね色にいりつけてはともさけも入吉さんせうのこ

かこせうのこかわさびなど少入吉しやうゆふにてもいりつけ候［はふざけ］

きぢのはの中のふしよりさきをこまかにたゝきしほ少入いりて右之から

ミ何にても入さけをよきかげんにして出し候也身をくひ申時ハしやうゆ

少くハへ吉［ねり酒］たまこに白ざとうを入ひゑざけにてよく／＼ねり合かん

をいたし候也［しやうがざけ］ミそにしやうがをろしすりつけいりてさけを入

かんをいたし候しやうが計も入也ミそざけハミそばかりいるゝ也［あま酒は

やづくり］だうミやうし一升をゆにてあらひあけおきこうじ一升水一升

五合よくすりてすいのうにてこしなべに入とろ／＼とねり候へハ時のま

によく成申候白ざたう入よし

　　　　　第六さかなの部

［たまごふわ／＼］たまごをあけて玉ごのかさ三分一たしたまりいり酒

〔７ウ〕

を入よくふかせ出し候かたく候へハ悪候いなのうす鳥のもゝげなど入候へハのぶす

まともいふ［まきかまぼこ］たまごのふのやきにかまぼこをつけ其上にあら

めをならべきり／＼とまきうへをゆひしほ少入ゆで候て切申也［まきする

め］するめをあらいくずのこを少ふりまき候てわらにてゆひゆにおして

さまし切也［たゝきするめ］そとあぶり候ていたの上にてむしりわる也［さけ

のなまび］生ざけをたてにさめがいもちのことく切しほ水に付少の間おきて

やがてほしてあぶり候［さけ入けつり物］ひだらするめさけのひらきひいかきす

ごふくめあをのり六条たゞし六条ハつきがなにてつかせ候也［ふきのたう］

ゆで候てくしにさしさんせうミそを付あぶるゆですにも仕候［たまごばす］

はすの中へたまごのき成所ばかりながし入口おしてゆでゝきりいたし候［ひや

し物］大こんうりはすくろぐわいりんごもゝすもゝあんずくりなし

［なし物］たいのこ同わたさばのせハたふくためいわしうにうるめか同子

なり子がものわたさけのわたはららしつきかつほたゝきひばりうづ

ら［すづけ］めうがむめしやうが山もゝ竹の子ばうふううどはすにんじん

ほたてしそさんせうまたゝび此外色々たゞししほ二合す一升也

〔８オ〕

　　　　　第七なますの部

［れうり鱠］たいさゞいきすごかれいこゑひなどいろ／＼入おろしなど

くハへ仕候何れもなますハぜんを出しさまにあへ候て吉しほかげん大事也しほ

ハ一度入候てよきやうに分別有べし二度三度入候てハ悪候かげんハいろ／＼其

時分の物つくり次第をくべし［鳥鱠］何もつくり鳥ばかりすにていためその

後たい其外入あへ候て出しわさびくハへてよし［がんざう鱠］きすごさよりかれい

ゑいいかなどいろ／＼つくりまぜ候事是ハすしほかげんしてあへけん計置べき也

［沖鱠］あぢいななどをまろにつくりたてをあら／＼ときり入候をいふ也さばもよし

たい其外の魚にても仕候しほかげん大事也［こいの子つけ膾］こいを三まいにおろし

ミをうすくへぎかハをのけほそくつくりやがていりたる子をつけて吉おそく

候へハ付かね申候さていり酒にすをくハへはしらかしなます半分にかけて半分ハ

ひへたるすにわさび入あへ両方かき合出す也たゞしこひミなにはしらかした

るをかける伝も有之［ふななます］ふなを三まいにおろしほねかしらにしやう

ゆを付よくやきてこまかにたゝき身ハいかにもうすくつくりいりたる子をかき

合からしずにてあへ候又たてずにても吉やきがしらめん／＼にもりわくる事

〔８ウ〕

も有そうべつなますのかげんハなますをミなもりてあとにすのおほく

あまり候ハぬかよく候［このしろ鱠］ふなのごとく［やまぶきあへハ］ふななま

すをからし入すにあへ申事也［ひてり鱠］あめのうを三まいにおろし身ハ

すきてつくり両のかハを打合かハめよりやきてきざミ入たうのいもの

くきをさゝがき入すしほかげんしてあへ候をいふ也かハもしらやき也［かば

やき鱠］あゆにてもあめのうをのごとく仕候事也これも身ハすきてつくり

候かハしらやき［ぬたなます］からしをよくすりてさけのかすをよくすりあゆ

にてもいわしにてもなよしにてもまづすにていためそのすをすての

ちにぬたをすにてのべすかげんしてあへ候也後のすおほきハ悪候たゞし

あゆにてハあをまめのぬたにゆのはきざミ入あへ申事も有［太郎助鱠］

一しほのたいあわひなどいかにもうすくつくりいりざけすたうぶんにして

あへ候たゞしあわひハのちに入吉ますざけも吉花がつほ三月大こん木く

らげなどきざミ入て吉［やきほね鱠］たいのうすミほねなとやきむしり

取て田つくりいりて川ゑひ木くらげくりしやうがおろしなと入てすし

ほかげんしてあへ申候［わさびあへ］がんかも同もゝけなどつくりすにて

〔９オ〕

しほ少ふりいためそのすをすてたいらぎあわひたいなと入わさび

すにてあへ申候鳥いれずにも仕候［かせちあへ］うづらにても小鳥にても

しやうゆを付あぶり候てこまかに切からしずにてあへ候［水あへハ］いりざけ

にすをくハへ吉ごん切田つくりするめいりこ小鳥やきて入からざけあをう

り木くらげごほう右之内取合あへ申候さんせうのはきざミ入てよし

［あをあへ］いりこをよくゆにしてだしたまりにてよくに候てあをまめをす

りしほかげんしてあへ候

　　　　　第八さしみの部

［しもふり］たいをおろしよきころにきりにえゆに入しらミたる時あけ

ひやしつくりたゝミ候事也いり酒よしからしなど置［かきたい］たいを

三まいにおろしこそげてかさねもり候いりざけ吉からしおくけんハより

がつほくねんほみかんきんかんよし［小川たゞき］生がつほおろしよくたゝ

きすきいたにつけにゑゆをかけしらめてつくりたゝミ候右之かきだい

にもり合吉こいにても仕候同いりざけ［すゞき］あをすしやうがすよし

［生がつほとさハら］いりざけしやうがす吉［くしら］うすくつくりにゑゆをか

〔９ウ〕

けさんせうミそず［ふか］かハをひきつくりてにゑゆをかけよくしらめて生

がずにて吉さつとゆがきて吉［さめ］同前［こち］かハをはぎうすく

つくりてしやうがずいり酒たてずにても［あんがう］しらめてしやうがず吉

［こいとふなとあゆ］いり酒［うなぎ］白やきにして青ずにて吉［かもがんハ］

きじのごとく又ほねぬきにしてハわぎりにしてわさびすしやうがミそず

吉［にわ鳥］きしのごとく［こがも］きじのさしミにたひのそほろゆがきも

り合わさひミそずにて吉けんにかたのりきんかん何も鳥むしりて

［むし竹子］ねを切かわとゝもにたてに置せいろうにてむしいろ／＼に切

白すにてさしミ吉みるくいあわびにがい又しいたけ木くらげなども

り合吉［さゞい］よなきみるくい鳥がいたいらぎのわたなどハつくり

ゆがきてわさひみそず吉［川ちしや］よめがはぎあさつき又ハきく

の花しやくやくのるいハ何もすみそにて吉［さかびて］たいあわひたら

さけあゆのしほびきからすミかふらぼねがん鶴かも右之内いかにもしほ

めよきをつくりもり候けんハくねんほ其外さく次第たしさけかけてよし

　　　　　第九にものの部

〔１０オ〕

［いりだいいりこいハ］さしミより少あつくつくり候たいにてもこいにても子を半分ハつミ

切半分ハくだきて入ざけにすをおとしはしらかし出しさまにたいも子も入やがても

り候にゑすぎ候へハ悪候［たいするがに］たい白やきにしてだしたまりにすを少くハへよくに候て出し

候又やきてぶたのあぶらにてあげ扨に候へハいよ／＼吉是ハなんばんれうりといふ［すきやき］

たいをあつくつくりおきたしにてみそをかふたてなべに入にえ候時はこに入先ほねかしら

を入にる身ハ入候てやがて吉とふをさして吉かきはまぐりたうふねぶか其外つくり次第入也

［なべやき］みそ汁にてなべにて其まゝに申也たいほらこち何にても取合［はもの子いり］だ

しにしほ又ハかけをおとし候すも少くわへ仕立候はもハなますよりあつくつくり子もわたも

入て吉［たこのするがに］たこをよくあらひ其まゝたしたまりにすをくハへいぼのぬくる迄よくに申

候［さくらいり］たこのてばかりいかにもうすく切だしたまりにてさつとに申候［すいり］だし

にしほばかり入にる出し候時すをくハへよしあぢさバかつほのるいよし［こさいに］さはら

をしらやきにしてだしたまりにてに申候也［ふくらいり］なまこを大きに切だしたま

りにふかせ出しやうに入其まゝもる事也あわびいかにも吉［しゆんかん］竹の子をよくゆだ

して色々に切あわび小鳥かまぼこたいらきたまこふのやきわらひさがらめ右之内を入だ

したまりにてに候へて吉又竹の子のふしぬきかまぼこを中へ入に候て切入も有［のつへいとう］かも

〔１０ウ〕

をいりとりのごとくつくりだしたまりにてにるにえ立候時かげんすい合う

どんのこたしにてときねばるほどさしにゑ候時出し候ぼとしぎなどもう

づらも［生がハ］がんにてもかもにてもかハをはぎつくりすをはしらかし二へん

かけて置又ミをつくりすを一へんかけてしたミだしたまりかげんしてにゑ

候時すい合鳥を入其まゝ出し候うハおきせり其外つくり次第也たいのそぼ

ろ白め置て吉［せんば］ことりにても大鳥にてもだしにかけをおとして

吉［にびたし］ふなを白やきにしてだしたまりにてに申事也［とうふ］だし

たまりにて一あわ二あわに候てはや出し候をふわ／＼と申也［れうりたう

ふハ］ねりみそにだしくハへ吉うハおき花がつほくりしやうがくろごまく

るミなどおきて吉［ひばりころばかし］中へたまりかまぼこ入吉とうふ

たまごとうふをすりくちなしにてうすくそめくずのこを少くハへ

だしたまりにてたまごのふわ／＼のごとくしていたし候ほんたまこの

ごとく也［ふなのこゞり］たれみそにかけをおとしほねのやハらかに成まで

に申候て風ふきにおき候へハ一時のまにこゝり候夏ハところてんのくさく

ハへ［ふののつへいとう］ふをあぶらにてあげ大きに切かものれうりのごとく

〔１１オ〕

吉［ゆで鳥］ほね共にだしたまりにて久敷に申候いり鳥かもをつくり先かハ

をいりてのち身を入いりだしたまりかげんしてに申候いりざけもくハふ事

有せりねぶかくきたちなど入吉すい口わさびゆよし

　　　　　第十ごだんの部

［うどん］こいかほど打申候ともしほかげん夏ハしほ一升に水三升入冬ハ

五升入てしほ水にてかげんよき程にこねうすにてよくつかせ玉よき比

にいかにもうつくしくひきめなきやうによくまるめ候てひつに入ぬの

をしめしふたにして風のひかぬやうにして置一ツヽ取出し打て吉ゆで

かげんハくひ候て見申候汁ハにぬき又たれミそ吉こせう梅［けいらん］

もち米六分うるの米四分よくこにしてきぬにかけいく度もふる

いよき比に水にてこね中へくろざたうをつゝミきんかん程にまるめて

に申候汁ハうどん同前たゝし米のかしやう少の間水につけやがてあげ

ておけに入なミよくおし付て吉はやけれバこあらくおもし久敷つけ候へハ

こぬれてとちあいふるい候事ならす候［きりむき］しほかげん打やう

うどん同前汁ハにぬき又たれミそにからしたてゆ［くずそうめん］先

〔１１ウ〕

くずを少水にてときわかしめしのとりゆほどのかんにしておけにう

つしさましそれにてこをこね申候かげんハひきあげおとし見るにいと

に成きれぬ程か吉はやくをつるもきるゝも悪候とおし申上戸ハゆび

のはいる程にあけ申候おやわんよしふときほそきハじやうごのかうげ

により候なべのゆをよくにやして吉そうめんにゑ色かハり候ハヽすひ

のうにてすくいとり水に入ひやしよくあらい候水をさい／＼かへ候へハいよ

／＼白く見事に成候也きりむぎ同前よしのくずより外ハならす候

［そばきり］めしの取ゆにてこね候て吉又はぬるゆにても又とうふをすり

水にてこね申事も有玉をちいさうして吉ゆて候ゆすくなきハ悪候に

ゑ候てからいかきにてすくいぬるゆの中へ入さらりとあらいさていかき

に入にゑゆをかけふたをしてさめぬやうに又水けのなきやうにして出して

よし汁ハうどん同前其上大こんの汁くハへ吉花がつほおろしあさつ

きのるい又からしわさびもくハへ吉［むぎ切］大むぎのこ也打やうハきり

むぎのごとくうちてみじかく切て汁うハおきハそバきりのごとくよし

［にうめん］先そうめんをみしかく切ゆで候てさらりとあらいあげ置

〔１２オ〕

たれミそにだしくハへふかせ入候小なねぶかなすびなど入てうすミそ

にても仕立候こせうさんせうのこよし

　　　　　第十一万きゝかきの部

［一夜ずしの仕様］あゆをあらいめしをつねのしほかげんよりからうしてうを

に入草づとにつゝミにわに火をたきつと共にあぶり其上をこもにて

二三べんまきかの火をたきたるうへにおきをもしをつよくかけ候又はし

らにまき付つよくしめたるも吉一夜になれ申候しほうをハならす候

［くじらのおき様］しほ一升水一升をふかせよくさまし三日つけおき其後

あけ候てつとにしていつまてもおく也其まゝおけにつけおく伝も有又か

すにつけしほくハへつぼに入置候へハいよ／＼吉あかミハ久敷ゐ不申候［竹の

子のおきやう］よくゆにしてあまざけにしほをくひかげんに二しほ三しほ

もからくしてつけ置候へハいつまでもいろよくゐ申候しほをいだしつかい候

［白川あまざけハ］白三升を引わりよくむしさましてかうし五升に水五

升入よくもミてすいのうにてこししほりかすをすて其水にて

つくりいれとき／＼かき合候夏ハ三日冬ハ五日にてよし［なし物しほ

〔１２ウ〕

かげん］夏ハいを一升にしほ五合冬ハ三合入て吉［ふなのかすづけ］一やじほを

してかすに付おしをつよくかけ吉五日六日の内に吉あをうりの置様かんの内の雪

をしほからく入せんじてつぼに入置うり二つにわりなかごよく取つけ置候らい年

夏まで有ねぶかさゞけなどもおく也［竹の子の切りぼし］いかやうにも切しほゆに

てゆにをすこし仕よくほしてつぼに入置来年までいろかハらす九十月の比

又取出しほして吉［なすびの切ぼし］生にてほしつぼに入置吉是九十月に三五

べんもほして吉［ほしたるしいたけ］生になす事いかにもうらのしろきをさたう水

につけおき候へハ生に成申候［ゆを来年迄あおくおく事］むめ程なる時こぬか一升

にからかねのせんくづすこしくハへつけおき候つかい候時ハよいよりしほをいたし候

［水ごんにやく］よくに候て其まゝ雪にあて候へハこほり候たうふも同前［こけ

らずし仕様］さけをおろし身をひらくと大きにつくりめしにしほかげんして

かき合そのまゝおしかけ申ばかり也その外かいせごいなども一夜しほして

つかまつり候

　　　　　　　　甲

　　　　貞□元年　□月吉日　　　　　平野町　本や

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　又兵衛

〔１３オ〕

参河

〔裏表紙ウ〕